



早川 浩徳 議員

認知症に寄り添う  
まちづくりについて

問 地域や市民と認知症の方が、ともに歩んでいく

地域づくりの醸成について

答 住民の方々と一緒に取り組みを進めて

いきたいと考えています

係者と共有し、日常のケアに  
活かしていただいています。

問 認知症の方の現状と推移  
は。

答 健康福祉部長

認知症で医療機関を受診  
された方が、令和2年度は、  
1,429人、令和3年度は、  
1,454人と増加傾向にあ  
ります。地域包括支援セン  
ターでの相談件数は、5年間  
で約1.7倍に増加していま  
す。

問 早期発見とその取り組みに  
ついてはどうか。

答 健康福祉部長

「認知症サポーター養成講  
座」で早期発見・早期受診の  
大切さ、身近な相談窓口や医  
療機関の紹介などの啓発を  
行っています。

を一度も受けていない方や、  
医療機関を受診されていない  
方で支援が入っていない方を  
対象に、訪問しています。

答 健康福祉部長

平成17年度から「認知症サ  
ポーター養成講座」を開催し、  
延12,654人の方に受講  
いただいています。受講者が  
「認知症カフェ」を開催した  
り、発症されても地域のサロ  
ンや活動に継続して参加でき  
るよう取り組まれている地域  
もあります。認知症になって  
も住み慣れた地域で自分らし  
く過ごすことができるまちづ  
くりを目指して、住民の方々と  
一緒に取り組みを進めたい  
と考えています。

問 地域のサロンに来られない  
方なども含めて、情報を把握  
し、支援のテーブルに乗せる  
ことが重要だがどうか。

答 健康福祉部長

介護予防把握事業として、  
2年間あるいは1年間に健診

答 健康福祉部長

過去に若年認知症と軽度認  
知症の方から「認知症であつ  
ても家族や地域のためにでき  
ることがあると思うのでサ  
ポートしてほしい」などのお  
声をいただきました。こうし  
た思いを医療や介護・福祉関

